

第227回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和3年11月17日（水）午後1時30分

閉会 令和3年11月17日（水）午後2時45分

2 会議の場所

一関市役所会議室棟第4会議室

3 出席者

教育長 小 菅 正 晴

委員 千 葉 和 夫

委員 伊 藤 一 志

委員 桂 島 加奈子

4 会議に出席した関係者及び職員

教育部長	菅 原 春 彦
一関図書館長	黒 川 俊 之
教育部次長兼教育総務課長	及 川 和 也
教育部次長兼学校教育課長	菅 原 正 樹
文化財課文化財係長	金 野 修
一関市博物館次長	佐 藤 光 俊
教育総務課庶務係長	細 川 圭 子（記録）

5 議題及び議決事項

教育長職務代理者の指定について

6 報 告

- (1) 教職員の懲戒処分について
- (2) 行事報告及び行事予定について

7 その他

- (1) 令和3年度学校教育行政の重点について（グローバル化への対応）

- (2) 大東地域統合中学校校舎改修・増築実施設計の状況について
- (3) その他

8 会議の議事

○教育長 今日佐藤委員は欠席になりますので、4名であります。
ただいまから第227回一関市教育委員会定例会を始めます。
議事に入ります。

教育長職務代理者の指定について

○教育長 議事日程第1、教育長職務代理者の指定につきまして、事務局から仕組みについて説明願います。

教育部長。

○教育部長 (説明)

○教育長 それではこの内容については、規則から教育長が指名するということになっておりますので、私のほうから指名させていただきます。

教育長職務代理者については、これまでと同様に、千葉和夫委員にお願いしたいと思います。

これについて皆さんから何か質問ありますか。よろしいですか。

それでは、千葉委員、またよろしく申し上げます。

報告(1) 教職員の懲戒処分について

○教育長 それでは、3番の報告に入ります。

(1)教職員の懲戒処分についてであります。この懲戒処分については人事案件でありますので、非公開、公開しないということを提案したいと思っておりますが、出席委員の3分の2以上の多数で議決したときは公開しないというようにされておりますので、皆さん方から、これについて可否を取りたいと思っております。

公開しないことについて、賛同の方は挙手願います。

ありがとうございます。全員一致で非公開といたします。

(非公開)

○教育長 非公開の部分はこれで終わります。以降は公開といたします。

報告(2) 行事報告及び行事予定について

○教育長 (2)行事報告及び行事予定について、私のほうから行事報告をいたします。

資料2をご覧ください。今回は10月20日に教育委員会の定例会を行いましたので、それ以降のことについて報告いたします。

10月22日、栗野健次郎顕彰会の事務局が来訪されました。これは市内の任意の団体で、栗野健次郎を顕彰している団体であります。教育関係について、いろいろな講演会を設定したりということで、いろんな部分で貢献していただいております。

この団体から、今年度、子どもたちの生きる力ということに関わって、自己肯定感ということテーマにしたアンケートを行いたいという申し出がありました。実際には、一関市内の小学6年生と中学3年生の合わせると1,000何百名、2,000名近くになるのですが、その子どもたちにアンケートを配ると同時に、親御さんにもアンケートを配って、それをクロス集計して分析したいということでありました。

お願いされたのは一関市の教育委員会もそうですが、平泉町の教育委員会、それから秋田の東成瀬村の教育委員会です。この団体は、東成瀬村とよく連携をとっています。東成瀬については、学力でも非常に評価が高く、2年前でしたか秋田に行って、ここの学校を訪問させていただきましたけれども、そのように広く分析をしたいということです。ある意味ではいわゆる都市部の部分と、比較しながら分析したいということでありましたので、これに了解して協力する予定であります。ですからアンケートを実施する予定で、今準備を進めているところであります。ちなみにこの栗野健次郎顕彰会は、いとう脳神経外科の先生が会長になっているところです。

第31週、26日、地域医療対策会議がありました。私も保健センターのほうに出席させていただきました。これは市長ほか、保健福祉部が中心になるのですが教育委員会も関連するので、出席させていただいております。1年に1回のこのような会合であります。

内容的には、どちらかというと、市政の方に関連する内容がほとんどでありましたので、市の教育委員会からは、健康診断等の結果を提示しながら、ご理解をいただいたというところでありました。桂島委員の旦那さんにもこれに出席していただいております。

21日、教育委員の辞令交付ということで、伊藤委員の任期を新たに更新しまして、向こう4年間お願いするというので、市長のほうから辞令交付が行われたところでありました。

同じ日、藤沢中学校の公開研究会がありました。主体的に学習に取り組む生徒の育成ということで、学習のシートを活用した授業ということでありましたが、生徒も大変いい姿勢で授業を受けたところでありました。

同じ日、花泉地域の統合小学校学校づくり推進委員会の役員会がございました。あえ

てこの時期に役員会をやったのは、前にも話しましたとおり新花泉小学校の学校建設に関わって、杭打ち工事の中で有害物質の六価クロムが検出されたという件がありましたので、あらかじめこの推進委員会にここで報告したところでもあります。大方理解していただいたというところでありました。

29日、教育民生常任委員会がありました。今話した内容についてもこの常任委員会の中で説明をさせていただいたところでもあります。この常任委員会では、藤沢地域の新沼小学校と藤沢小学校の統合についても報告をさせていただいたところでもあります。

同じ29日、岩手県生活科総合的な学習教育研究会の一関大会が東山小学校でありました。生活科というのは小学校1年生2年生、総合的な学習というのは小学校3年生以上が、今、教育課程の中で学習しているところではありますが、その内容についての研究大会であります。これは教育委員会が直接主催したものではありません。この団体が主催したもので、東山小学校を会場に行ったものであります。

東山小学校の6年生は、この研究会があるからということではなく、普段から総合的な学習の時間に力を入れておりまして、新聞にも載りましたけれども、東山町内のある店を借りて、そこで東山のいろんな物産を販売するという体験学習を行ったところでもあります。子どもたちが販売するので大分値段を下げてもらったりしながら、しかも子どもたちがそういうことに関わることで親御さんもたくさん出ていただきまして、普段なかなか閑散としているのですが、その日だけは通りもかなりの人数でごった返したようであります。

いずれそういう子どもたちが地域のことを知り、また地域もそういう子どもたちを盛り上げようとする部分が、学校内に限定されず、地域にも出て行ったということが、非常に見るべきものがあつたなと思っております。

30日、萩荘中学校の統合50周年記念式典・記念講演会がありました。コロナ禍でありましたので記念の事業は講演会のみということでありました。式典のほうには市長と私も出席し、祝辞を述べております。

講演会は、この萩荘中学校の卒業生で、50歳ちょっと過ぎの佐々木亮さんという方が講師で、外務省などに勤め、そのあと国連でも仕事をしたことがある方で、国際色も非常に豊かな方でありました。外国に行った数も100カ国は行きませんが、何十カ国も経験した方で、その人の話を受けたところでありました。子どもたちも国際理解の学習に非常に繋がったのではないかなと思われまます。

11月1日、学校給食調理業務委託の指名型プロポーザル審査委員会がありました。このプロポーザルというのは、それぞれ応募した事業者が、自分の仕事の内容についてプレゼン等を行って、委員がそれを見て委託先を決定するという仕組みであります。いわゆる価格でもって決定しないと、契約の価格でもって決定しない、いわゆる入札制度とはまた

別の形での決定の仕方で、今回はそのプロポーザルで給食の調理業務の委託先を決めるということでありました。

現在、給食センターは市内に6か所ありますけれども、そのうち5か所は既に調理業務委託を行っておりまして、真滝の給食センターだけは市のほうで運営していたということになります。これを機会に真滝も全部委託するということで、今回は西地区については西部と西部第二、真滝の3つを1か所の業者に委託します。それから花泉、大東、千厩の給食センターも同じように、また別の業者に委託するということで、委託する業者は、2社であります。これを決めるための審査委員会でありました。今月中には、最終的には市長の判断で決定することになります。私と教育部長もこの委員として参加させていただいております。

11月2日、教育長会議、管内校長会議がありました。これは人事関係についてであります。人事関係のいろいろな作業が今後スタートしていきます。

11月4日は社会教育委員会会議がありました。社会教育委員は全部で20名ぐらいであります。1年間に3回ぐらい会議をやっておりまして、今回は2回目ですが、今回は場所を骨寺村荘園交流館の若神子亭で行いまして、まず社会教育委員に展示室とかシアターを見学してもらった後に、現在の骨寺村荘園遺跡の世界遺産に関わる取組について、文化財の次長のほうから説明していただきました。質問もいくつか出ましたけれども、理解が深まったのではないかと思います。

11月7日、ジュニアエコノミーカレッジ in いちのせき、これは商工会議所の青年部が主催しているものであります。私も時間がある時はこれに参加させていただいております。おもしろい取組を何年間か続けてやっておりまして、参加する子どもたちが5、6人のグループを組んで、まずその親御さんに出資してもらい、株主になってもらうということで、お金を出して出資してもらって、そのお金を集めて、そのお金でもって商品の仕入れから販売までを子どもたちが実際にやるというそういう体験活動であります。

それで出た利益について、もちろん仕入ですから、当然業者に支払った上で出た利益については、株主である親に配当として返します。さらに、出た利益については、税金として市の方に払います。税金と言っても要するに寄付ですが、市のほうに受け取ってもらいます。さらに出た利益については、わずかではあります。それを子どもたち同士で社長を決めていますから、社長がそれを分配するということで、社会の仕組みがよくわかるようなそういうことをやっておりまして。

子ども達は本当に積極的に参加して、今回は一関小学校で3グループ、千厩小学校で1グループということで、コロナ禍であったので参加を制限したようですが、そういう学習をしているようです。青年部の方が市内の子どもたちのためにこういうことをやってい

ただいているということで、非常にありがたいと思っておりました。

11月8日、学校訪問千厩中ですが、これで今年度の私の学校訪問が全部終わりました。

11月9日、市議会の臨時会議がありました。補正予算でありましたが、先ほど言った新花泉小学校の建設をめぐる杭打ちの六価クロムの件については、教育部長のほうから臨時議会の中で報告させていただきました。特に質問はありませんでしたので、ご理解いただいたというように思っております。

同じ日、文化賞の贈呈式がありました。これは文化会議所が主催するもので、私は来賓として列席しただけであります。今回3団体の方に文化賞が贈られております。

紹介しますと、1つは東山の磐井清水の若水送りの方々に贈られていますし、それからもう1つは、岩手宮城県北の神楽大会を継続して行った団体に贈られております。毎年4月に、巖美中学校の体育館で行われている神楽大会です。それからもう1つは個人ですが、千葉万美子氏に贈られております。この方は文学の蔵設立に関わっている文学者でありまして、エッセイも書いている方でもあります。それから能楽のほうで随分地域で活動している方でもありますのでこの千葉万美子さんにも贈られておりまして、全部で2団体1個人に贈られたというところでありました。

同じ日、歯科保健対策連絡会議がありまして、先ほどの医療関係の医療対策会議と同じように、歯科保健についても同じような会議を年1回行っております。市長、私も出席させていただきましたが、今回は歯科医師会のほうからは、フッ化物洗口ということについて話題が出されておりました。これをやったらどうかという提案もあったと思うのですが、このフッ化物洗口というのは、フッ素の入った液体を口の中に含んでするうがいを、1週間に1回程度学校でやることによって、虫歯にかかる率が下がるというデータが全国的に出ていますが、それをやって欲しいという要望が前から出されていて、今回もその話題になりました。

ただ現実的に、次長のほうでもこれを行っている平泉小学校などの情報を得たのですが、かなりいろいろな部分で先生方の負担に繋がるので、今すぐにこれをやることは考えていないということでお話はさせていただいておりましたが、やっぱりそれは何とかできるのではないかという話もあったりして、そういう部分での理解を深めたところでございますが、今後もこれについては話題になるのではないかと考えております。

第34週、15日、租税の下敷きの寄贈がありました。一関の地区法人会からありました。この下敷きは市内の6年生全員に配って欲しいということでの申し出でありました。青年部会からであります。女性部会からも絵葉書コンクールのことについての募集があったところあります。

16日、昨日ですが、岩手県学校ICT協議会がありました。これは教育長達がこの協

議会に入っております、このあと県教育委員会と市町村教育委員会の意見交換会がありました。

ここで特に話題になったのは、校務支援システムという、学校の中で成績とか出席とかを一括して管理できるそういうシステムについて、それぞれの市町村でバラバラに入れていると経費的に大変なので、県内の教育委員会で連携してこれを入れようということで、県の教育委員会で音頭を取ってこれをやりましょうという、そういう提案でありました。現在、県内の半分近くの市町村がもう既に入れているのですが、一関は入れておりませんので、今回の提案に基づいて令和6年から運用できるように、令和5年度にはシステムを構築すると、令和4年度には予算要求するというのが、順調にいけば、そういう形で配備になるということで、一関市としても教育委員会としてこれに乗っかっていきたいと思っております。

以上、行事報告でありました。ちょっと細かくお話ししましたが、以上でございます。

何か報告について質問ありますか。

よろしいですか。

それでは行事予定についてお願いいたします。

教育総務課長。

○教育総務課長（説明）

○教育長 それでは最初に確認ですが、12月22日に教育委員会定例会ということですが、よろしいでしょうか。この日程の確保についてよろしくお願いいたします。

その他、何か行事予定につきまして、よろしいでしょうか。

報告は以上といたします。

その他(1) 令和3年度学校教育行政の重点について（グローバル化への対応）

○教育長 4番のその他に入ります。(1)令和3年度学校教育行政の重点について、シリーズで説明しておりますが、グローバル化への対応ということで、説明をよろしく申し上げます。

学校教育課長。

○学校教育課長（説明）

○教育長 それでは、これについて何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

その他(2) 大東地域統合中学校校舎改修・増築実施設計の状況について

○教育長 それでは(2)に入ります。大東地域統合中学校校舎改修・増築実施設計の状況につきまして説明願います。

教育総務課長。

○教育総務課長 (説明)

○教育長 これについて何かご質問ありますか。

千葉委員。

○千葉委員 2階の多目的教室については、教室2つくらいの広さがあるわけですが、これに全部机と椅子を入れるのですか。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 こちらは机、椅子等は配置しないで、何も無いような教室になります。

○教育長 伊藤委員。

○伊藤委員 当初、大東中学校はエコの学校だということで、交流広場というところには大きな地下タンクがあって、雨水を集めて浄化して使っていたり、風力発電も行われていたのですが、今後はそういうのはないのですか。結局、東日本大震災の時、このタンクが崩落して使えなくなったので、今後はそういう学校ではなくなるということですか。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 風力発電の方は今ちょっと故障しているのですけれども、今後はいずれ修理して、また再開したいというように考えております。タンクの方は、ちょっとまだ、その話が出てきていなかったもので、その辺は確認して対応したいと思います。

○教育長 タンクは確か使えていないと思います。貯蔵だけだと思います。確かに、エコを掲げて作った学校でありますけれども、継続できる部分は継続して、修理に相当かかる場合には経費の工面がつかないと思います。ちょっと情報収集してください。

○伊藤委員 震災前にそのタンクを見たことがあるのですが、雨水を浄化してそれを校舎に戻して、水洗トイレに使って、有益に使っていました。だから、ちょっと惜しいなという感じがしています。

○教育長 その他、ありますか。よろしいですか。

それではこれを基本にしながら進めていきますのでよろしく願います。

その他(3) その他

○教育長 (3)のその他に入ります。

伊藤委員。

○伊藤委員 2点ほどお伺いします。まず1点は、本日の岩手日報の記事にありましたけれども、認定こども園でノロウイルスの健康被害があったようですが、それに対する教育

委員会としての対応があるのかというのが1つと、それからもう1つはですね、先ほどもグローバル化への対応の説明がありましたけれども、現場の先生方とちょっとお話ししたり、懇談したりした時に、市の教育行政に対する配慮というのがすごくきめ細かで、現場としてありがたいという声が非常に強く出ていました。例えば、講師の先生をお願いしたり、或いはサポーター、支援員さんをお願いしたりしているのですが、やっぱりフルではなくて、俸給に関わってくるので、時間制になってしまう。だけれども、そういうのを現場では工夫しながらうまく使っているのですが、時間になっていなくなると、どうしても教育課程時間が残っていると、担当していた子どもたちを他の先生が面倒みなければならぬ。非常にちょっとそれが大変だなというお声がありました。ですから、そのようなことを考えたり、或いは、このグローバル化で外国人に対しても、きめ細かな対応で手だてを講じようとする姿勢はものすごく大変だと思います。

いずれにしても、やっぱり人を配置するにはお金が必要だと。だから、教育費の捻出というか、歳出というか、本当は正直な話、この間の市長さんとの意見交換会の中には、ちょっと触れて、お願いしてみたかったですけれども、残念ながら時間がなくてお話しできなかったのですが、そのようなことで、素晴らしい取組と素晴らしい手だて、素晴らしい心配りをしている教育行政に、何とかお金の上乘せを考えていただけるようなことはできないでしょうか。

○教育長 教育部長。

○教育部長 ノロウイルスの新聞報道があったところですがけれども、公立のこども園は保健福祉部が所管してしまっていて、情報共有されてない状況で、場所がどこかはわからないのですが、ノロウイルスとか、そういうような部分については、そうなった場合のマニュアルが確立されていますので、適切に対応されることと思います。

あと2番目の教育関係予算の部分についてですがけれども、一関市においては、今お話があったような形で、最善最良の方向で予算措置を進めているところではありますが、市全体の財源不足の関係で、一般財源ベースで今年度いけば5%カットというような形で、市全体での削減に取り組んでいるところです。教育委員会所管の予算についても同様の形で、あらゆる方面から、見直しを行って新年度予算編成に臨んでいるところではあります。

市全体の予算編成においては聖域がないというような形で進んでいるところではあります。委員のお話のとおり、これからの一関市を担っていく子ども達の教育の部分です。引き続き予算確保に努めて参りたいというように思います。

○教育長 予算のことについてですが、昨日の校長会議で校長先生方に私のほうから、一関の人口の減少、それから人口の減少によってどうしても市の財政は緊縮財政にならざるを得ないということ、と同時に児童生徒数も減って、学校数も減っているの、いろいろ

な配置をしている、いわゆる会計年度任用職員、非常勤、その方々も、どうしてもそれに沿って減らさざるを得ない状況だということをご理解くださいということ、校長先生方にあえて話をしました。一番端的な例が、今の高校1年生は1,020人ぐらいいるのですが、どんどん減って、0歳児は520何人しかいないですから、そういう状況になるのはもう間違いないわけで、その中でどうするかということを考えていかななくてはいけないので、ある程度緊縮にしながらも選択して集中的にやるところは集中するというような、予算の強弱をつけながらいかなければ駄目な時代になってきているなという感じはします。ですから、配置している会計年度任用職員もトータルとすれば減っていくと思います。ただその中でも、増やさなくてはけない、例えばICTなどは増やすことになるし、その分、他である程度抑えなくてはいけないということも出てくるのではないかなと思います。

ですから非常に苦しいですが、これは一関だけではなく、県内どこでもそういう悩みを抱えていますから、昨日の県の教育委員会との意見交換会に県内各市町村の教育長がほぼ全員来たのですが、ICTの話題になると、質問はほとんどお金はどうなるのだという、そちらに話題が行ってしまうという、厳しい状況なことは確かです。

その他何かありますか。

桂島委員。

○桂島委員 先ほどグローバル化ということでお話しがあったのですが、伊藤先生がおっしゃるように教育のほうの予算のことで、ICT化を進めているのであればWi-Fiのもとで無料のアプリや言語に使えるものを利用して、予算をかけない方法でYouTubeを使ったりということ、外国籍のお子さんたちに対する日本語の指導に活かせるのではないかなと思います。

前にコンビニで買い物をしていましたら、外国の方がアップルパイを指さして「これは何か」と聞いてきたのですが、英語でちょっとしゃべっても通じなくて、どうやらスペイン語とかブラジルとかポルトガルの方だったのかなと思うのですけれども、英語を話しても通じないという方が、一関でも仕事の面でも入ってきているので、英語だけではダメなのだと思った時がありました。

この前、新型コロナワクチンの集団接種の当番の時に、外国の方も来るのですけれども、英語が通じる方だと「どちらの腕に打ちますか」とか「アルコールのアレルギーはないですか」というのは簡単な英語で伝えられるのですけれども、名前にこれはベトナムとかマレーシアの方だとなると「Your name please」と言っても通じないので、それこそアルコールのアレルギーがあるかというのも伝えられなくて困ったなと思って、付き添いの方も来るのですが、10人ぐらい連れてくると並ばせるだけで一生懸命になって、言葉のほうも結局伝えられなくて、困ったなという場面がありました。

次男が仲良くしている子にも、お母さんが中国人でお父さんが日本人という方がいて、小学校2年生まで日本語がしゃべれなくて、南小学校で言葉の指導を受けていたというのを最近聞いて、今はもう中国語がしゃべれなくなって、日本語はもちろん話せるのですけれども、先ほどのとおりいろいろな人との関わりがあって、その子も今普通に理解できているので、予算に関しては苦しいところではあるのですけれども、英語だけではなく本当にグローバルな、英語圏じゃない人達との関わりというのも必要になるのだなと思います。

集団接種できたインドネシアだったりベトナムだったりというお母さんたちが、一関で所帯を持って、また英語圏ではないお子さんが増えると思いますので、その関わりをいかにやっていくかというところも大変だなと思いました。アプリとか、ICT化を進めているので、やれる範囲で対応していただきたいなと思いました。

○教育長 学校教育課長、何かコメントありますか。

○学校教育課長 なかなかインストール等、様々難しい部分もあるかもしれませんが、利用できる部分は利用して、どんな可能性があるかという部分については、可能性を探ればいいのかと思います。

○教育長 現実的には、国際理解のボランティア団体があって、ボランティアで、例えば中国なら中国の言葉にある程度対応できるような人をお願いして、1週間に何回か学校に派遣してもらって話をしてもらおうということはやっているのです。全員ではないですが。言語がそれぞれ違うとなるとさらに大変なので、実際に学校の中ではそういう、全然話せない子どもでも、もう最初は身振り手振りで先生方が空き時間に対応したりそういうことで対応して、飲み込みの早い子はどんどん覚えていく。親は覚えられないけれど、子供はもう覚えていくので、そういう部分の対応もある程度現実の中でやらざるを得ない状況です。国のほうも、いろいろ外国人に対しての対応は積極的にやるようにと言っているのですが、基本的に予算措置はないのです。お金はよこさないのにやれと言われるので、市町村でも予算要求をしようとすると、一体何人いて、来る予定はあるのかという話になると、結局予算がつかないのが難しい部分がある。だからいろいろな手を使いながらやっていくしかないのです。現在のところは。あとは宗教上の問題があったりするとさらに事態は難しいのかなと思います。グローバルの時代ですから、そういったものもある程度対応しながらやっていくことになると思います。

ありがとうございました。

その他ありますか。事務局からはいかがですか。

以上で、第227回一関市教育委員会定例会を終わります。